

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 6 月 10 日 (2021.6.10)

【公表番号】特表 2020-518588 (P2020-518588A)

【公表日】令和 2 年 6 月 25 日 (2020.6.25)

【年通号数】公開・登録公報 2020-025

【出願番号】特願 2019-559715 (P2019-559715)

【国際特許分類】

C 07K 19/00 (2006.01)

A 61K 38/21 (2006.01)

A 61P 31/10 (2006.01)

A 61P 31/12 (2006.01)

A 61P 31/04 (2006.01)

A 61P 35/00 (2006.01)

A 61P 37/00 (2006.01)

A 61P 29/00 (2006.01)

A 61K 47/65 (2017.01)

C 07K 14/555 (2006.01)

C 07K 14/00 (2006.01)

C 12N 15/62 (2006.01)

【F I】

C 07K 19/00 Z N A

A 61K 38/21

A 61P 31/10

A 61P 31/12

A 61P 31/04

A 61P 35/00

A 61P 37/00

A 61P 29/00

A 61K 47/65

C 07K 14/555

C 07K 14/00

C 12N 15/62 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 4 月 26 日 (2021.4.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

I 型インターフェロントパク質またはこの一部と、I I I 型インターフェロントパク質またはこの一部とを含む、融合分子であって、

I 型インターフェロントパク質が、ヒト I 型インターフェロントパク質であり、I I I 型インターフェロントパク質が、ヒト I I I 型インターフェロントパク質である、前記融合分子。

【請求項 2】

I 型インターフェロントパク質またはこの一部が、インターフェロン アルファまたはこの一部であり、

任意に、インターフェロン アルファまたはこの一部が、インターフェロン アルファ 2 またはこの一部である、請求項 1 に記載の融合分子。

【請求項 3】

I 型インターフェロントパク質またはこの一部が、インターフェロン ベータまたはこの一部である、請求項 1 に記載の融合分子。

【請求項 4】

I I I 型インターフェロントパク質またはこの一部が、インターフェロン ラムダ 1 またはこの一部である；または

I I I 型インターフェロントパク質またはこの一部が、インターフェロン ラムダ 2 またはこの一部である；または

I I I 型インターフェロントパク質またはこの一部が、インターフェロン ラムダ 3 またはこの一部である、請求項 1 に記載の融合分子。

【請求項 5】

I 型インターフェロントパク質またはこの一部と、I I I 型インターフェロントパク質またはこの一部との間にリンカーをさらに含む、請求項 1 に記載の融合分子。

【請求項 6】

その N 末端にシグナルペプチドをさらに含む、請求項 1 に記載の融合分子。

【請求項 7】

I 型インターフェロントパク質または I I I 型インターフェロントパク質の成熟した一部を含む；または

I 型インターフェロントパク質または I I I 型インターフェロントパク質のシグナルペプチドを包含する配列全体を含む、請求項 1 に記載の融合分子。

【請求項 8】

請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合分子および薬学的に許容し得る担体を含む、医薬組成物。

【請求項 9】

インターフェロン処置に反応する疾患または疾病を処置するための方法における使用のための、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合分子または請求項 8 に記載の医薬組成物であって、該方法が、有効量の請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合分子または請求項 8 に記載の医薬組成物を、処置を必要とする対象へ投与し、これによって対象の疾患または疾病を処置することを含む、前記使用のための融合分子または医薬組成物。

【請求項 10】

対象における疾患または疾病を処置するための方法における使用のための、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合分子または請求項 8 に記載の医薬組成物であって、該方法が、有効量の請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合分子または請求項 8 に記載の医薬組成物を対象へ投与し、これによって対象の疾患または疾病を処置することを含み、ここで疾患または疾病が、ウイルス感染症、真菌感染症、細菌感染症、がん、炎症性疾患、または自己免疫疾患である、前記使用のための融合分子または医薬組成物。

【請求項 11】

対象における感染症を抑制するための方法における使用のための、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合タンパク質または請求項 8 に記載の医薬組成物であって、該方法が、有効量の請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合タンパク質または請求項 8 に記載の医薬組成物を対象へ投与することを含む、前記使用のための融合分子または医薬組成物。

【請求項 12】

融合タンパク質が、対象における 2 以上の細胞型を標的にする、請求項 11 に記載の使用のための融合分子または医薬組成物。

【請求項 13】

2 以上の細胞型が、対象の肺または呼吸器にある；または

2 以上の細胞型が、対象の腸にある；または
2 以上の細胞型が、対象の複数の器官にある、請求項 1 2 に記載の使用のための融合分
子または医薬組成物。

【請求項 1 4】

対象におけるがんを抑制または処置するための方法における使用のための、請求項 1 ~
7 のいずれか一項に記載の融合タンパク質または請求項 8 に記載の医薬組成物であって、
該方法が、有効量の請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合タンパク質または請求項 8
に記載の医薬組成物を対象へ投与することを含む、前記使用のための融合分子または医薬
組成物。

【請求項 1 5】

I F N - R 1 鎖を分解または下方調節する感染症を患う対象において、I F N - R
2 鎖を通して I F N 誘導遺伝子の転写のシグナリングを誘導するための方法における使用
のための、請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合タンパク質または請求項 8 に記載の
医薬組成物であって、該方法が、有効量の請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の融合タン
パク質または請求項 8 に記載の医薬組成物を対象へ投与することを含む、前記使用のため
の融合分子または医薬組成物。